

平成27年度 地域・老年看護学ユニット研究活動状況

A. 構成メンバー

岩井 恵子、増田 恵美、原 希代、鹿島 英子、吉村 牧子

B. 研究活動

1. 研究費執行の経過

ユニットの研究は、共同研究費、科研費、個人研究費による。

科研費による研究は、基盤研究C（特設分や研究：課題番号15KT0096岩井恵子）、「限界集落での生活組織の形成が生活維持に及ぼす影響の検証と生活維持プログラムの構築」（平成27～29年）である。

奨励研究（関西医療大学：吉村牧子）は「地域特性が高齢者の保険行動に与える影響」である。

2. 共同研究の経過

① SP参加型看護教育システムの構築

平成25年度より研究を開始し、平成26年度に第2期くまとりSPを養成し、SPの活動の拡大はかった。平成27年度には、介護福祉士養成校における演習への参加およびそのためのシナリオ作成に加え、新たに実習病院での新人看護師教育での演習のためのシナリオ作成および実施と活動範囲を拡大し、12月にはその成果を交流集会という形で日本看護科学学会にて発表を行い、多くの賛同を得た。

SP参加型教育システム構築により、くまとりSPが単に保健看護学部の演習だけで活躍するのではなく、地域、実習施設へと具体的に活動範囲が広がった。今後はそれぞれでの活動の教育的効果を検証するとともに、学内演習の充実、実習施設や地域との連携の強化というように、さらにSP参加型教育システムの確立を進めていく。

② 限界集落での生活組織の形成が生活維持に及ぼす影響の検証と生活維持プログラムの構築

平成24年度より26年度までの3年間フィールドワークを中心とした、「超限界集落で生活をする高齢者の生活実態と保健医療的支援に関する研究（課題番号24660067岩井恵子）」を行い、一定の成果を得た。

今回はさらに研究フィールドを拡大した「限界集落での生活組織の形成が生活維持に及ぼす影響の検証と生活維持プログラムの構築」（平成27～29年）の研究を開始

した。

C. 研究業績

学会発表

吉村牧子、増田恵美、鹿島英子、岩井恵子：高齢者SP（Simulated Patient）の活動を支える要因，日本老年看護学会20回学術集会，2015.6.

岩井恵子：山間の超限界集落におけるソーシャル・キャピタル，日本老年社会科学会第57回大会，2015.6.

岩井恵子、吉村牧子、紀平為子他：SP参加型看護教育システムの構築－SP養成からSPを中心とした看護教育の実践－，第35回日本看護科学学会学術集会.2015.12.

著書

中川義基、川村佐和子、岩井恵子他：介護福祉士養成テキスト 医療的ケア，法律文化社，2015.5.

D. その他

岩井恵子：大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会講師，大阪府看護協会，2015年6・10月2016年2月.